

環境経営レポート



2024年度
対象期間：2023年10月～2024年9月

東工業株式会社

2024年12月10日発行

目 次

1	組織概要	…	2
2	環境経営方針	…	3
3	環境経営目標	…	4
4	環境経営計画	…	5
5	環境経営目標の達成状況とその評価	…	6
6	環境経営計画の実施状況とその評価	…	8
7	次年度の環境経営目標及び環境経営計画	…	9
8	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	…	10
9	代表者による全体評価と見直し・指示の結果	…	10

1 組織概要

- (1) 事業者名及び代表者名 東工業株式会社
代表取締役社長 倉田 光
- (2) 所在地 本社 〒951-8165
新潟県新潟市中央区関屋金鉢山町53番地
- (3) 環境管理責任者名及び担当者連絡先
環境管理責任者 倉田 光
事務局 営業総務部 森田 友未
連絡先 TEL 025-266-5166
FAX 025-266-5160
E-mail morita-t@azuma-indy.com
- (4) 認証・登録の範囲 東工業株式会社の全組織、全活動
- (5) 事業内容 空調・換気・冷暖房設備工事、
給排水・給湯・衛生設備工事の設計・施工
- (6) 法人設立年月日 1961年(昭和36年)2月24日
- (7) 資本金 2,900万円

(8) 許可の概要

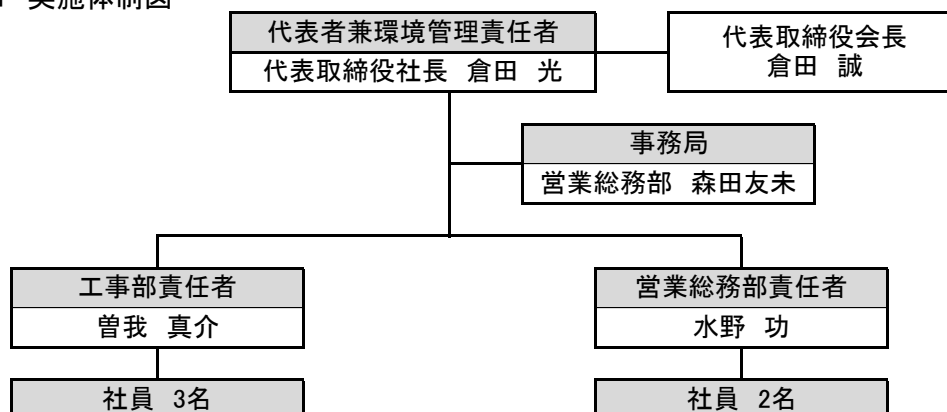
許可区分	許可番号	許可の有効期間	建設業の種類
一般建設業	(般-4)第2371号	令和4年5月19日から 令和9年5月18日まで	土木工事業、水道施設工事業、 機械器具設置工事業、 消防施設工事業
特定建設業	(特-4)第2371号	令和4年5月19日から 令和9年5月18日まで	管工事業

(9) 事業の規模

項 目	単位	2022年度	2023年度	2024年度
工事件数	件	156	184	157
従業員数	人	9	9	10
売上高	百万円	260	248	191
事務所床面積	m ²	180	180	180
倉庫床面積	m ²	50	50	50

- (10) 事業年度 10月～9月

(11) EA21 実施体制図



2 環境経営方針

《基本理念》

当社は、空調設備、衛生設備業者として、お客様満足を第一に、安心安全で快適な生活設備環境の創造に貢献するとともに、国際社会の共通ビジョンであるSDGsの目標達成とカーボンゼロ社会の実現に対しても、より良い地球環境の保全に全社員で貢献することで、持続可能な社会の実現に寄与します。

これを実現するため、下記の行動指針に基づく活動を行うとともに、経営における課題やチャンスを踏まえ、環境経営の継続的な改善に努めます。

《行動指針》

1. 電力や化石燃料の使用量の節約に努め、二酸化炭素排出量を削減します。
2. 建設廃棄物の排出抑制に努めるとともに、廃棄物の再資源化を進めます。
3. 節水に努めます。
4. 無駄のない資材管理・在庫管理を行います。
5. 環境関連法規を遵守します。
6. 環境経営方針を全社員に周知公開するとともに、環境保全意識の向上に努めます。

2023年10月2日 制定
東工業株式会社
代表取締役社長 倉田 光

3 環境経営目標

(1) 過去の実績

(年度は10月～翌年9月)

項 目	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
電力使用量	kWh	25,733	20,470	27,282	25,182
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	42,175	32,580	44,907	40,016
水資源投入量	m ³	495	392	552	495

※2021年度は2021年1月～9月

(2) 環境経営目標

環境経営目標（2024年度～2026年度）

2024年度～2026年度の3年間の中長期の環境経営目標及び各単年度の環境経営目標は、下表のとおりです。

項 目			単位	基準年度実績	環 境 経 営 目 標		
				2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
				2022年10月 ～2023年9月	2023年10月 ～2024年9月	2024年10月 ～2025年9月	2025年10月 ～2026年9月
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減		kWh	－	実態把握	目標値設定 目標管理	目標管理
			対基準年度比				
	化石燃料使用量	灯油	ℓ	201 (2020年度)	195	193	191
			対基準年度比		△ 3 %	△ 4 %	△ 5 %
		都市ガス	m ³	－	実態把握	目標値設定 目標管理	目標管理
			対基準年度比				
		ガソリン	ℓ	8,258	8,010	7,928	7,845
			対基準年度比		△ 3 %	△ 4 %	△ 5 %
		軽油	ℓ	681	674	667	661
			対基準年度比		△ 1 %	△ 2 %	△ 3 %
	計	二酸化炭素 排出量	kg-CO2	－	実態把握	目標値設定 目標管理	目標管理
			対基準年度比				
水使用量の削減			m ³	－	実態把握	目標値設定 目標管理	目標管理
			対基準年度比				
一般廃棄物排出量 の削減 (コピー機カウンター数)			kg	－	目標値設定 目標管理	目標管理	目標管理
			対基準年度比				
建設廃棄物の 再資源化率の向上			% (再生量/発生量)	92.6 (115.89/125.11)	94.5	95.4	96.3
			対基準年度比		▲ 2 %	▲ 3 %	▲ 4 %
資材管理・在庫管理 の適正化			評価点	2.0	2.2	2.3	2.4

- ・購入電力の二酸化炭素排出係数は、令和4年度地域創生ホールディングスの調整後排出係数0.378kg-CO₂/kWhを使用
- ・PRTR制度対象化学物質の使用はなく、化学物質の削減目標は設定していません。
- ・電気、ガス、水道については、従来、会社兼自宅だったため自宅使用分も含んでいたが、2023年10月より自宅の引っ越しで会社のみとなったため、目標を見直している。
- ・一般廃棄物排出量は、可燃ごみの排出量からコピー用紙使用量(カウンター数)へ変更。

4 環境経営計画

項 目			環境活動の内容	対象部署		主要な日程	責任者
				営業 総務 部	工事 部		
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	節電	昼休み時の消灯	○	○	通 年	森田
			不要な電灯の撤去又は消灯	○	○	通 年	
			空調機フィルターの定期掃除	○	○	6、12月	
			冷28℃、暖20℃の室内温度管理	○	○	7月～9月、12月～3月	
			待機電力の低減(使用しないコンセントは抜く)	○	○	通 年	
			電気ポット不使用時OFF	○	○	通 年	
	ガソリン・軽油使用量の削減	エコ安全ドライブの推進	エコ安全ドライブ等の周知	○	○	通 年	横川
			車両の定期点検の実施指示	○	○	通 年	
			運転記録の実施と安全運転管理者による点検	○	○	通 年	
			安全運転教育の指導・啓発	○	○	通 年	
		エコドライブ ¹⁰ の実践	① ふんわりアクセルeスタート	○	○	通 年	近藤
			② 加減速の少ない運転	○	○		
			③ 早めのアクセルオフ	○	○		
			④ エアコンの使用を控え目に	○	○		
			⑤ アイドリングストップ	○	○		
			⑥ 暖気運転は適切に	○	○		
			⑦ 道路交通情報の活用	○	○		
			⑧ 不要な荷物は積まずに走行	○	○		
			⑨ タイヤの空気圧をこまめにチェック	○	○		
			⑩ 駐車場所に注意	○	○		
		重機の省エネ運転を行う	① 不要時はエンジンを止める	-	○	通 年	曾我
			② 運転の負荷は適切に保ち、過負荷にならないようにする	-	○		
			③ 定期点検他、日常の始業点検を実施し性能を維持する	-	○		
			④ 適切な作業管理を行い、無駄な運転をしない。	-	○		
	灯油、ガス使用量の削減		暖房温度を20℃に維持する。	○	○	12月～3月	森田
			ウォームビズの励行	○	○	12月～3月	
	水使用量の削減		水道の栓をこまめに締める。	○	○	通年	森田
			水量を多くしない。	○	○	通年	
	一般廃棄物の削減		片面使用コピー紙入れを設け、裏面コピーを実施する。	○	○	通年	森田
			紙の分別を徹底(新聞、段ボール類)し、確実に回収ルートに回す。	○	○	通年	
	産業廃棄物再資源化率の向上		分別を徹底する。	-	○	通年	曾我
			処理委託先は再資源化を行う業者に委託する。	-	○	通年	
			産廃置場の整理整頓を行う。	-	○	通年	
	資材管理・在庫管理の適正化		資材置き場の整理整頓を徹底する。	-	○	通年	樋口
			資材・在庫の置場所の定位置活動を進める。	-	○	通年	
			無駄を生む発注はしない。	○	○	通年	
			無駄な在庫の場合は、可能な場合は早期に返品する。	○	○	通年	

5 環境経営目標の達成状況とその評価

(1) 環境経営目標の達成状況

2024年度の環境経営目標に対する実績は下表のとおりです。

2024年度環境経営目標の達成状況

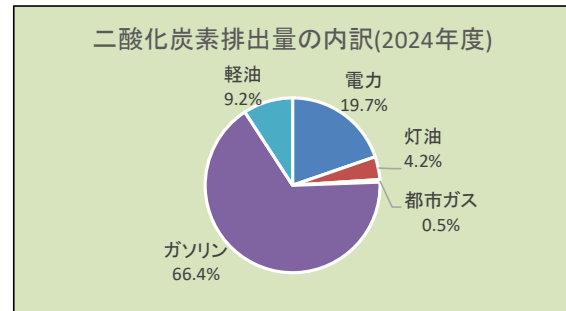
△削減
▲増加

項 目			単位	基準年度実績	2024年度(2023年10月～2024年9月)		
				2023年度 (2022年10月～ 2023年9月)	目標値	実績	達成状況 ○:達成 ×:未達成
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減		kWh	－	実態把握	13,736	－
			対基準年度比				
	化石燃料使用量	灯油	ℓ	201 (2020年度)	195	448	×
			対基準年度比		△ 3 %	▲ 223 %	
		都市ガス	m ³	－	実態把握	53	－
			対基準年度比				
		ガソリン	ℓ	8,258	8,175	7,534	○
			対基準年度比		△ 1 %	△ 8.8 %	
		軽油	ℓ	681	674	937	×
			対基準年度比		△ 1 %	▲ 38 %	
	計	二酸化炭素排出量	kg-CO2	－	実態把握	39,538	－
			対基準年度比				
水使用量の削減			m ³	－	実態把握	64	－
			対基準年度比				
一般廃棄物排出量の削減 (コピー機カウンター数)			枚	－	実態把握	47,377	－
			対基準年度比				
建設廃棄物の再資源化率の向上			% (再生量/発生量)	92.6 (115.89/125.11) (2020年度)	94.5	100 (12.2/12.2)	○
					▲ 2 %		
資材管理・在庫管理の適正化(3段階評価点)			評価点	2.0	2.2	2.2	○

- ・電力のCO₂排出係数は、令和4年度地域創生ホールディングス調整後排出係数を使用(0.378kg-CO₂/kWhを使用)
- ・PRTR制度対象化学物質の使用はなく、化学物質の削減目標は設定していません。
- ・資材管理・在庫管理の適正化の評価実績は、6.環境経営計画の実施状況とその評価に記載

(2) 実績の評価

2024年度の二酸化炭素排出量の排出源であるエネルギー種類の排出内訳を右図に示しました。ガソリン由来が最も多く全体の66.4%を占めています。ついで電力由来が19.7%を占め、軽油由来が9.2%、灯油由来が4.2%、都市ガス由来が0.5%となっています。以下にエネルギー別の環境経営目標の実績を示します。



① 二酸化炭素排出量の削減

(ア) 電力使用量の削減

昨年度まで自宅使用分も含んでいましたが、自宅の引っ越しに伴い、目標数値を見直したため、今年度は実態把握としました。
引き続き、節電および空調温度の適正管理、照明のLED化の検討を進め、使用量削減に努めていきます。

(イ) 灯油使用量の削減

取組期間の灯油使用量の環境経営目標は、基準年度実績201ℓの3.0%削減とし、195ℓ以下を目標としました。実績は、基準年度実績に比べ223%増加の448ℓとなり、環境経営目標を達成することはできませんでした。購入量を使用量として把握していますが、2年ぶりの購入で、購入量が増加しました。次回から購入時期を毎年一定にし、数値にばらつきが出ないように管理していきます。

(ウ) 都市ガス使用量の削減

電力同様、自宅使用分がなくなったため、今年度は実態把握としました。
ガスは、主に冬場の手洗いと少量の洗濯時に使用しています。大幅に削減できるものではないですが、無駄に使用しないよう周知を継続していきます。

(エ) ガソリン使用量の削減

取組期間のガソリン使用量の環境経営目標は、基準年実績8,258ℓの1.0%削減とし、8,175ℓ以下を目標としました。実績は、基準年度実績の8.8%削減の7,534ℓで、環境経営目標を達成しました。今後も、エコドライブ活動の更なる徹底に努めていきます。

(オ) 軽油使用量の削減

取組期間の軽油使用量の環境経営目標は、基準年実績681ℓの1.0%削減とし、674ℓ以下を目標としました。実績は、基準年実績の38%増加の937ℓで、環境経営目標を達成することはできませんでした。遠方の現場が多く、走行距離が増えたことが増加の原因です。

(カ) 二酸化炭素排出量の削減

電力・ガスの使用量が大きく減少する見込みのため、今年度は実態把握としました。

② 水使用量の削減

電力・ガス同様、自宅使用分がなくなったため、今年度は実態把握としました。

③ 一般廃棄物排出量の削減

有効性の観点から、目標数値をこれまでの可燃ごみの排出量からコピー用紙の使用量(カウンター数)へ変更し、今年度は実態把握に努めました。

④ 建設廃棄物の再資源化率の向上

取組期間の建設廃棄物の再資源化の推進の環境経営目標は、基準年度実績92.6%の2%増とし、94.5%以上を目標としました。実績は、基準年度実績の8%向上の100%で、環境経営目標を達成しました。処理委託先において再資源化できるものは、全量再資源化が行われています。分別意識は高くなっており、大きく向上できました。

⑤ 資材管理・在庫管理の適正化

取組期間の資材管理・在庫管理の適正化に係る環境経営目標は、基準年度評価点2.0の10%増とし、評価点2.2を目標としました。

資材管理・在庫管理の適正化に係る環境経営計画の3段階評価による評価点の平均値は、2.2と把握され、環境経営目標は達成できました。今後さらなる評価点の向上を目指し、資材管理・在庫管理の適正化を進めます。

6 環境経営計画の取組結果とその評価

2024年度では、下表に示した環境経営計画に基づき、環境活動を行いました。
実施状況を年3回評価しましたが、その年間平均は下表のとおりです。
評価点の向上を目指し取り組んでいきます。

環境経営計画の取組結果とその評価

評価結果の値は、四半期ごとに3点満点で評価した点数の平均値で、各点数は次の程度であることを表す。

※評価点：「3」実施できた 「2」一部実施しているが、さらに徹底が必要 「1」ほとんど実施できなかった

項 目			環境活動の内容	対象部署		評価結果		次年度の活動
				営業・ 総務部	工事 部	営業・ 総務部	工事 部	
二酸化炭素排出量の削減	電力削減 使用量の	節電	昼休みに不要な電灯は消灯する。	○	○	2.7	2.0	継続して実施
			不要な電灯は撤去又は消灯し、電灯使用の無駄をなくす。	○	○	2.7	2.7	継続して実施
			空調機のフィルターの掃除を定期的に行う。	○	○	2.3	2.3	継続して実施
			冷房温度を28℃、暖房温度を20℃に維持する。	○	○	2.3	2.3	継続して実施
			待機電力は、極力使用しない。	○	○	2.0	2.0	継続して実施
			電気ポットは、不使用時はコンセントを抜く。	○	○	3.0	3.0	継続して実施
	ガソリン・ 軽油使用量の削減	エコ安全ドライブの推進	エコ安全ドライブ等の周知	○	○	2.7	2.3	継続して実施
			車両の定期点検の実施指示	○	○	2.7	2.0	継続して実施
			運転記録の実施と安全運転管理者による点検	○	○	2.0	2.0	継続して実施
			安全運転教育の指導・啓発	○	○	2.0	2.0	継続して実施
		エコドライブ10を 実践する	① ふんわりアクセル(eスタート)	○	○	2.7	2.7	継続して実施
			② 加減速の少ない運転	○	○	2.7	2.7	継続して実施
			③ 早めのアクセルオフ	○	○	2.0	2.0	継続して実施
			④ エアコンの使用を控え目に	○	○	2.7	2.7	継続して実施
			⑤ アイドリングストップ	○	○	3.0	2.0	継続して実施
			⑥ 暖気運転は適切に	○	○	2.0	2.7	継続して実施
			⑦ 道路交通情報の活用	○	○	2.0	3.0	継続して実施
			⑧ 不要な荷物は積まずに走行	○	○	2.7	2.0	継続して実施
			⑨ タイヤの空気圧をこまめにチェック	○	○	2.0	2.0	継続して実施
			⑩ 駐車場所に注意	○	○	2.7	2.7	継続して実施
		重機の省エネ 運転を行う	① 不要時はエンジンを止める。	-	○	-	2.0	継続して実施
			② 運転の負荷は適切に保ち、過負荷にならないようにする。	-	○	-	2.3	継続して実施
			③ 定期点検の他、日常の始業点検を実施し、性能を維持する。	-	○	-	2.0	継続して実施
			④ 適切な作業管理を行い、無駄な運転をしない。	-	○	-	2.3	継続して実施
	灯油、ガス使用量の削減	暖房温度を20℃に維持する。	○	○	2.0	2.0	継続して実施	
		ウオームピズを心がける。	○	○	3.0	3.0	継続して実施	
水使用量の削減		水道の栓をこまめに締める。	○	○	2.3	2.3	継続して実施	
		水量を多くしない。	○	○	3.0	3.0	継続して実施	
一般廃棄物排出量の削減		片面使用コピー紙入れを設け、裏面コピーを実施する。	○	○	3.0	3.0	継続して実施	
		紙の分別を徹底(新聞、段ボール類)し、確実に回収ルートに回す。	○	○	3.0	2.3	継続して実施	
産業廃棄物再資源化率の 向上		分別を徹底する。	-	○	-	2.0	継続して実施	
		処理委託先は再資源化を行う業者に委託する。	-	○	-	2.0	継続して実施	
		産廃置場の整理整頓を行う。	-	○	-	3.0	継続して実施	
資材管理・在庫管理の適正化		資材置き場の整理整頓を徹底する。	-	○	-	2.0	継続して実施	
		資材・在庫の置場所の定位置活動を進める。	-	○	-	2.0	継続して実施	
		無駄を生む発注はしない。	○	○	2.3	2.0	継続して実施	
		無駄な在庫の場合は、可能な場合は早期に返品する。	○	○	2.7	2.0	継続して実施	

7 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

次年度の環境経営目標はP4に記載のとおりで、環境経営計画は下表のとおりです。

環 境 経 営 計 画(2025年度)

項 目			環境活動の内容	対象部署		主要な日程	責任者
				営業総務部	工事部		
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	節電	昼休み・外出・残業時の不要照明の消灯	○	○	通 年	森田
			空調機フィルターの定期清掃	○	○	8・12月	
			室温／冷房28℃、暖房20℃で管理	○	○	7月～9月、11月～3月	
			使用時以外、パソコン・プリンターの主電源OFF	○	○	通 年	
			電気ポット不使用時電源OFF	○	○	通 年	
			残業時間の短縮	○	○	通 年	
			照明をLEDに切り替える(切替時)	○	○	通 年	
	ガソリン・軽油使用量の削減	エコ安全ドライブの推進	エコ安全ドライブ等の周知	○	○	通 年	横川
			安全運転教育の指導・啓発	○	○	通 年	
			エコカーへ入れ替える(入替時)	○	○	通 年	
		エコドライブ10の実践	① ふんわりアクセルeスタート	○	○	通 年	近藤
			② 加減速の少ない運転	○	○		
			③ 早めのアクセルオフ	○	○		
			④ エアコンの使用を控え目に	○	○		
			⑤ アイドリングストップ	○	○		
			⑥ 暖気運転は適切に	○	○		
			⑦ 道路交通情報の活用	○	○		
			⑧ 不要な荷物は積まずに走行	○	○		
			⑨ タイヤの空気圧をこまめにチェック	○	○		
			⑩ 駐車場所に注意	○	○		
		重機の省エネ運転	不要時はエンジンを止める		○	通 年	曾我
			運転の負荷は適切に保ち、過負荷にならないようにする		○		
			定期点検の他、日常の始業点検を実施し、性能を維持する		○		
			適切な作業管理を行い、無駄な運転をしない		○		
	灯油、ガス使用量の削減	暖房時、室内20℃に維持	○	○	11月～3月	森田	
		ウォームビズの励行	○	○	11月～3月		
水使用量の削減			水道の栓をこまめに締める。	○	○	通年	森田
			水量を多くしない。	○	○	通年	
一般廃棄物排出量の削減			裏紙の利用	○	○	通年	森田
			可能な範囲で両面印刷の実施	○	○	通年	
			印刷ミス防止のため、印刷前に設定の再確認を徹底	○	○	通年	
			ペーパーレス化の推進	○	○	通年	
			紙の分別を徹底(新聞、段ボール類)し、確実に回収ルートに回す	○	○	通年	
産業廃棄物再資源化率の向上			分別の徹底		○	通年	曾我
			処理委託先は再資源化を行う業者に委託		○	通年	
			産廃置場の整理整頓		○	通年	
資材管理・在庫管理の適正化			資材置き場の整理整頓、定位置活動の推進		○	通年	樋口
			余剰在庫を生まない発注の徹底	○	○	通年	
			グリーン商品の情報収集・検討と使用	○		通年	

8 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

(1)環境関連法規等の遵守状況の確認結果

当社が規制対象となる環境関連法令は、下表に掲げる法令です。

上記の環境関連法令について、遵守状況を自主点検した結果、違反はないことを確認しました。

NO	関係法令	確認結果
1	廃棄物処理法	違反なし
2	新潟市産業廃棄物等の適正な処理の促進に関する条例	違反なし
3	騒音規制法	違反なし
4	振動規制法	違反なし
5	新潟市生活環境の保全等に関する条例	違反なし
6	水質汚濁防止法	違反なし
7	下水道法	違反なし
8	新潟県生活環境の保全等に関する条例	違反なし
9	消防法	違反なし
10	新潟市火災予防条例	違反なし
11	高圧ガス保安法	違反なし
12	家電リサイクル法	違反なし
13	自動車リサイクル法	違反なし
14	道路交通法	違反なし
15	道路運送車両法	違反なし
16	建設業法	違反なし
17	石綿障害予防規則	違反なし
18	フロン排出抑制法	違反なし
19	オフロード法	違反なし

(2)違反、訴訟等の有無

当社は、関係当局から違反などの指摘はありませんでした。
また訴訟もありませんでした。

9 代表者による全体評価と見直し・指示の結果

(1)全体評価

毎週水曜のノー残業デー徹底と昼休みの照明を半分にすること等から、エコアクションの意識づけは少しずつ出来て来ている。エコアクション21についての勉強会を開催し、全体での共有にしていこうと一人ひとりの意識を上げていくことが大事である。また、灯油と軽油が増えた分に関して、灯油を入れる時期を決めることにより1年間の使用量を意識する事と、ガソリンと軽油について、一人ひとりがどのぐらい使用しているのか数値を共有することによって、さらなる意識づけを図っていくことが大事である。

(2)見直しの結果

- ア 環境経営方針
現行の方針を継続する。
- イ 環境経営目標
社屋からの自宅の引っ越しに伴い、実態把握を含む新たな3か年度の環境経営目標を策定した。今年度一年間の実績値をもとに来年度以降の目標を再設定する。
- ウ 環境経営計画
「一般廃棄物排出量の削減」の項目を中心に、一部変更を行った。
- エ 実施体制
現行の実施体制を維持していく。
- オ その他環境経営システム
変更の必要な事項は認められない。